

愛知県立大府特別支援学校の概要

平成29年8月21日

1 本校の教育目標

家庭及び医療機関との連携をもとに児童生徒の病気や障害の状態に応じた教育を行い、主体的に学び、社会を形成する一員として、こころ豊かな生活を築く態度を養う。

校訓 強く 明るく 健やかに

2 児童生徒の状況（平成29年5月1日現在）

(1) 学級数・児童生徒数・教職員数

・学級数

43学級（小学部21学級、中学部16学級、高等部6学級）

・児童生徒数

119人（小学部47人、中学部36人、高等部36人）

校内59人、ベッドサイド5人、施設内教育38人、訪問教育17人

・教職員数

定数94人（校長1、教頭2、部主事3、教諭80、期付講師8）、養護教諭2、実習教員2、事務職員5、栄養教諭1、調理員2、介護員2、用務員2

(2) 大府特別支援学校と病弱特別支援学級の児童生徒数の推移【資料1】

(3) 知的障害特別支援学校、特別支援学級の児童生徒数の推移【資料2】

3 学校の状況

(1) 本校の概要

本校には、小学部、中学部、高等部があります。児童生徒は保護者の送迎や自転車、公共交通機関、スクールバス（最寄り駅から学校まで）などを利用して自宅から登校する場合と、隣接する病院「あいち小児保健医療総合センター（以下「小児センター）」から通学してくる児童生徒（小学部、中学部）がいます。また、隣接病院から本校に通えない児童生徒のためにBS（ベッドサイド）学級を小中学部においています。このほか3つの施設内学級（名古屋大学医学部附属病院、中京病院、藤田保健衛生大学病院；毎日4、5時間授業）に小中学部を、前記した小中学校が担当していない病院に入院している児童生徒のために訪問教育（個別に週3回2時間程度授業）を行っています。

(2) 学校の沿革

本校は昭和14年に創設された国立療養所「大府荘」に入荘している児童生徒のために児童病棟を特設し、治療のかたわら生活訓練（作業療法）の一環として隣接の県立教員保養所の援助で学習指導を受けてきました。その後、昭和28年4月1日に知多郡大府町立大府小学校大府荘分校、同年9月1日に大府中学校大府荘分校、昭和39年4月1日に県立教員保養所の廃止にともなって、その建物を利用して愛知県立名古屋養護学校大府分校が設置されました。そして校地を変更して昭和47年4月1日に「愛知県立大府養護学校」として開校しました。現在の「大府特別支援学校」と名称変更されたのは、平成26年のことです。

国立療養所中部病院以外の病院に入院治療している児童生徒への学習支援は、昭和51年に開始した病院への訪問教育からです。昭和54年度の養護学校義務制実施により、訪問教育から施設内教育が分離し、「校内」「院内」「訪問」といった現在の本校の教育形態が整いました。児童生徒数は昭和58年度に264名でピークを迎え、その後、在籍数は年々減少し、平成13年度からは100名前後で推移しています。その間、医療技術の進歩・発展や医療制度等の改変により児童生徒の在籍期間は短くなりました。

- S28. 4. 1 大府町立大府小学校に大府荘分校設置
- S28. 9. 1 大府町立大府中学校に大府荘分校設置
- S39. 4. 1 愛知県立名古屋養護学校大府分校設置(県立教員保養所建物)
- S45. 8. 3 校地、校舎の移転
- S47. 4. 1 **愛知県立大府養護学校設置**
- S48. 3. 2 **小体育館竣工**
- S49. 3.29 校地として国有地を買収 ※この年、高等部設置
- S49. 7. 3 校地として国有地を買収
- S51. 6. 1 病院訪問教育開始(名大病院、中京病院、豊橋市民病院)
- S54. 4. 1 施設内学級12学級設置(養護学校義務化)
- S55. 4. 1 スクールバス運行開始
- S58. 4.13 フィールドアスレチック完成
- S59. 3.19 プール完成
- H12. 4. 1 フィールドアスレチックを健康福祉部へ移管
- H13.11. 1 **あいち小児保健医療総合センター開設(中部病院小児科閉鎖)**
児童生徒33人が転院・転校
- H14. 3. 9 小児センターとの連絡通路使用開始
- H28. 7.29 自転車置き場完成
- H29. 1.31 児童生徒昇降口新設工事完了
- H29. 3.24 A棟解体作業完了

4 愛知の特別支援教育

(1) 病弱特別支援学校の今後

(ア) **小児センター心療科の移転**

平成28年度、隣接する小児センターが小児救命救急センターとしての機能を強化し、その後は周産期医療も始まります。また、平成30年度には、小児センターの心療科がコロニー内の機能訓練センターに移転します。同じく平成30年度に本校敷地内に新設の大府もちのき特別支援学校が開校します。本校高等部の知的障害の学級はすべて新設校に移ります。この点では児童生徒数は減少します。

(イ) 施設内教育、訪問教育の充実

愛知県精神医療センター(旧城山病院)の訪問教育に平成29年度、思春期病棟内に教室ができました。職員控え室、教室等が整備されました。名大病院は小児がん拠点病院として小児医療を重視しています。また近々、小児医療センターの名を掲げる予定もあり、学齢期の入院児童が増えます。

さらに、入院＝病弱虚弱であるため、特別支援教育の対象となります。入院期間の短い児童生徒にも教育の保障をしなければなりませんので、**施設内教育、訪問教育の対象者は増加**する傾向にあると考えます。

(ウ) 病弱教育の今後

昨年度と今年度、**病弱の特別支援学級の学級数、児童生徒数が激増**しています。これは、学校に病弱の児童生徒が1人いれば、学級が新設できるようになったことが理由です。平成22年度から小中学校が担当する院内学級には支援を行ってきましたが、今年度から病弱の特別支援学級担当者にも支援を行います。

このように、本校を取り巻く環境が大きく変わり、このことが児童生徒数や障害や病気の質を変えていくことになると思います。

愛知県立大府もちのき特別支援学校について

1 学校名及び設置場所

愛知県立大府もちのき特別支援学校

大府市森岡町7丁目427番地（県立大府特別支援学校内）

2 設置部及び学校規模等

(1) 設置学部及び学級規模

小学部、中学部、高等部

42学級、226人を想定

（小学部16学級65人、中学部10学級47人、高等部16学級114人）

65人の確保は？

65人確保

120名確保

(2) 施設規模

敷地面積 29,145 m²

建物延べ面積 7,273 m² 鉄筋コンクリート造3階建て校舎

渡り廊下、昇降口、バスステーションを新築

3 対象障害種

知的障害

4 開校までのスケジュール等

（単位：千円）

年度	内容	予算額	備考
平成26年度	基本設計	42,258	地質調査含む
平成27年度	実施設計	90,020	
平成28年度	建設工事	610,825	
平成29年度	建設工事	2,355,271	H28年度2月補正対応分1,973,539千円含む 開設準備事務開始 教育相談の実施 左記のうち、初度調弁費78,239千円含む
平成30年度	開校	-	

※ 総事業費 3,098,374千円

5 通学区域

半田特別支援学校から大府市、東海市、東浦町

三好特別支援学校から豊明市

* 通学区域内でスクールバスを運行します。



6 その他（平成29年4月より開設準備事務について）

- ・入学や転学などを始めとした教育相談の実施（三好・半田）
- ・教育目標、教育方針、教育課程等の決定
- ・学校行事や年間指導計画の立案
- ・スクールバスの運行計画の立案
- ・必要物品や備品の準備等

【参考】（歳入：国庫補助金及び交付金）

負担金：公立学校施設整備費国庫負担金（義務部）

交付金：学校施設環境改善交付金（高等部）